

令和2年度 碧南市いじめ問題専門委員会 会議録

1 日時

令和2年8月4日（火）午後2時～

2 場所

碧南市役所5階 教育委員会室

3 出席者及び欠席者

(1) 出席者

委員 三宅大輝、委員 定塚甫、委員 山下晋

(2) 欠席者

委員 坪田祐季、委員 松永聡

(3) 事務局職員

教育部長 岡崎康裕、学校教育課長 小澤徹、学校教育課課長補佐 石井佐和、学校教育課指導主事 榊原純子

4 傍聴者 0人

5 議題

(1) いじめ問題専門委員会の役割と活動について

いじめ重大事態の発生と対応について

(2) 令和元年度いじめの現状とアンケートについて

6 議事の要旨

(1) あいさつ 部長あいさつ

(2) 委員紹介 課長による委員紹介

(3) 協議事項

いじめ問題専門委員会の役割と活動について

いじめ重大事態の発生と対応について

議事の要旨

3 協議事項

(1) いじめ問題専門委員会の役割と活動について

いじめ重大事態の発生と対応について

事務局が会議資料に基づき説明した。

<主な意見・質疑>

特になし。

(2) 令和元年度いじめの現状とアンケートについて

事務局が会議資料に基づき説明した。

<主な意見・質疑>

- 三宅委員 いじめの発見と相談状況の数字について、学校職員が発見した件数よりいじめられた生徒が学級担任に相談した件数の方が多いが、生徒は、担任にいじめだと思って相談しているが、担任がいじめではないと判断しているものもあるか。
- 事務局 あきらかに手が出ていると、判断できるが、見えないところで起こっているものを担任が発見するのは難しいという差になると理解している。
- 定塚委員 いじめる側は、先生に見られないようにするし、いじめられた側も先生に訴えていかないことが多いと思う。よほど低学年でないと先生に言わないのでは。
- 事務局 それを分かった上で、子供たちを見ていかないといけない。
- 三宅委員 先生が発見するのは、どんな事案か。
- 事務局 例えば、授業の中で、何もなかったら多分見過ごしてしまうような出来事があったが、その生徒は、日ごろの生活の中でもいじめられているようだという教員の間で、情報共有があった上で把握という事例。
- 山下委員 中学校が少ないのは、ネットなどで、先生には見えない。先生は、その場をほとんどおさえることができないということ。
- 事務局 SNSは、最後に学校に相談があり、やっと見つかる。ネット上のグループの中には、教員は、<sup>はい</sup>入れないので見えなくなっているところは、非常に問題視している。証拠は残っているので、学校はそれをもとにして、相手や相手の保護者に話していくしかない。それが起こらないように指導をしているが、繰り返し起こっているという現状がある。
- 定塚委員 証拠を残していても、ほとんど本名ではやってない。
- 事務局 仲のいい子は、この名前が誰なのか分かるが、SNSで教員がつかむのは不可能。今、小学校の高学年から中学年に移ってきている。少しでも予防意識を。それについて考えるきっかけとしてのアンケートでもある。生徒指導主事会で共有し、2学期以降反映させていきたいので、アンケートの改善点などについてご意見をいただきたい。

三宅委員 ①アンケートの設問ではないが、「誰にも伝えない、秘密ですよ」ということを書いた方がよい。子供が隅々まで読まない可能性があるので、フォントや下線などで読みやすくした方がよい。

②自分が、いじめ予防の出張授業で、話をしているときに思うことだが、いじめは、いじている方といじめられている方、どちらが悪いかという質問をすると、いじめられる方が悪いと考える生徒もいて、そういう考え方を持っている子も中にはいる。そういう子は、いじめられると書くと自分が悪いということ先生に伝えることになってしまうのではないかと考える子もいるのかもしれない。そういったところに配慮して、いじめられている子が書きやすいアンケートになるよう検討いただきたい。

③ ②から発展して、それについて、「先生と相談したい？ どうしたい？」というところを聞く欄があるといいのでは。

事務局 アンケートをもとに子供と二者懇談をする場合が多いが、確かに、具体的にどうしてほしいかと聞くのはいいと思う。

山下委員 二者懇談を全員やるなら、もっと簡単でもいいのではないかな。細かく書けないこともあるかもしれない。いじめられているかどうかだけ確認できればいいのではないかな。体裁として、書きづらい感じがする。三者懇では、この内容の話はできないかな。

事務局 アンケートについては、いきなり三者懇ではなく、まずは、二者懇談。

定塚委員 公認心理士など第三者に頼めないか。先生の多忙化問題もある。

事務局 アンケートは、学校で配慮しながら実施する場合や家で考えてくるように実施する場合がある。文部科学省は、一つの有効的な手段として示しているが、だんだんアンケートで把握できなくなっている部分もあるので、学校現場としてはいろいろな方法を取り入れなければならない。ご指摘いただいた具体的な内容や各学校にいるスクールカウンセラーの活用など検討していきたい。

山下委員 アンケートの設問で、SNSやインターネットとあるが、SNSやメールのことだと思うが、文句を書かれることもあるが、ブロックして拒否もいじめで、これは、何も残らない。

事務局 今は、ブロックして相手にしないという形があることを認識している。

山下委員 いじめは、やっぱりあるものだと思うているが、どうやって解決するのが一番

いいのか。自分の子供の頃は学級会で解決した気がする。みんなで解決する？先生が解決する？いじめが無い？どれがよいのか。

事務局 過去に体質の事で、周りから言われて学校に来られなくなった子がいたときは、学級会をやった。やはり先生の指導でだけではなく、子供たちが理解して、関わりを変えていかないと、見た目はなくなるが続いていってしまう。ただ、子供どうしだけの問題、学級全体の問題など両方あり、学級全体で話し合った方がいい場合もあれば、そうでない場合もあり、ケースバイケース。

山下委員 いじめは、けんか、なぐっておしまい、昔はそうだったが。どうするのが一番よいのかは事例を積んでいく必要がある。

事務局 より良い解決方法を見つけていきたい。